

西大和つうしん

2016年 6月号
No.408



釈迦ヶ岳への登山道に咲いたアカヤシオと鈴鹿山系稜線
<2016年4月24日：岩ヶ峰・釈迦ヶ岳>

奈良県勤労者山岳連盟
西大和山の会

西大和つうしん

第408号(2016年6月号)

【目次】

6月度山行計画	1
6月度・7月度カレンダー	3
山行・行事等参加メモ	4
山行報告	
・登山学校 《4月9日》 比良の山 第1回実技山行(野路)	5
・例会山行 《4月24日》 鈴鹿の山 岩ヶ峰・釈迦ヶ岳(杉村)	7
・自主山行 《5月1日》 鈴鹿の山 入道ヶ岳(杉森)	8
・教育山行 《5月8日》 矢田丘陵 登山者のための事故対応講習会(亀高)	9
・自主山行 《5月7-12日》 佐渡の山 金北山・佐金剛山(橋本・今井・野路)	10
・例会山行 《5月15日》 布引山地 経ヶ峰(島崎)	12
室内例会だより(4/27)	13

6月度例会山行計画

～ふるさとの自然を守り育てよう！～

例会山行1 県連クリーンハイク 《二上山》

【日時】2016年6月5日(日) (担当:辻)

【集合】上牧駐車場 8:45、近鉄二上神社口駅 9:00

又は 道の駅「ふたかみパーク當麻」9:15

【コース】加守神社登山口～雄岳～馬の背～雌岳～祐泉寺～当麻寺～
～ふたかみパーク當麻

※雨天決行ですが、当日大雨等で開催不能と判断したときは、6月12日に順延

～夏山山行に向けて、岩稜を安全に歩くために～

教育山行第2回 岩稜歩行講習会 《金毘羅山 Y 懸尾根》

【日程】座学:2016年6月1日(水)19:30～於:会事務所(担当:藤本)

実技山行:6月11日(土)/予備日:6月6日(月)

【講師】奈良県連教育部長 中武佳史氏

【テーマ】①岩稜歩行講習会参加に必要な装備と簡単なロープワークについて
②地図読みの初歩の初歩(追加テーマ)

【集合】京都市営地下鉄「国際会館」駅・京都バス乗り場

★6/11(休日ダイヤ):9:10発 大原経由小石出行バスに乗車

★6/06(平日ダイヤ):9:30発 大原経由小石出行バスに乗車

夏山訓練山行 第1回目

教育山行 鈴鹿の山《国見岳 1160m～御在所岳 1209m》

【日 時】2016年6月19日(日) (L 島崎)

【集 合】上牧町役場前駐車場 午前 7:00 出発

【コース】湯の山温泉(9:00)～藤内小屋～国見岳～御在所岳～(中道ルート)～
～湯の山温泉(16:00)

※夏山山行に向け、歩荷訓練を致しますので、別途、2L～4Lを用意ください。
食事は行動食の予定です。

鷹取山から五大山の稜線歩きを楽しみましょう！

例会山行2 丹波の山 《五大山 569m》

【日 時】2016年6月26日(日) (L 田中悦)

【集 合】上牧町役場前駐車場 午前 7:00 出発

【コース】エルムいちじま～(20分)～鷹取山登山口～(30分)～美和峠～
～(15分)～鷹取山～(15分)～美和峠～(45分)～愛宕山～(25分)～
～五大山～(45分)～白毫寺分岐～(25分)～エルムいちじま

岩の甲冑をまとう奇峰、兜岳・鎧岳を縦走しよう!!

例会山行1 室生の山 《兜岳 920m～鎧岳 893.9m》

【日 時】2016年7月3日(日) (L 亀高)

【集 合】上牧町役場前駐車場 午前 7:00 出発

【コース】サンビレッジ曾爾～(20分)～延命地藏～(50分)～兜岳～(25分)～
～峰坂峠～(40分)～鎧岳～(30分)～峰坂峠～(40分)～ヒダリマキガヤ
群生地分岐～(10分)～曾爾郵便局/巾着山公園



サンビレッジ曾爾から望む兜岳（左）と鎧岳（右）

西大和山の会 カレンダー

6 月			7 月		
1	水	座学「岩稜歩行に必要な装備」など	1	金	
2	木	ハイキングリーダー学校:座学	2	土	山筋ゴーゴー体操基本講習会
3	金		3	日	例会山行1 兜岳・鎧岳(亀高)
4	土		4	月	
5	日	クリーンハイク :二上山(辻)	5	火	県連理事会
6	月	ハイキングリーダー学校 :実技山行	6	水	
7	火	教育山行 岩稜歩行(藤本)予備日	7	木	
8	水	県連理事会	8	金	座学「天候判断」
9	木	自主山行 大台ヶ原(島崎)	9	土	
10	金		10	日	教育山行:夏山訓練 迷岳(藤井)
11	土	教育山行 岩稜歩行(藤本)	11	月	
12	日		12	火	
13	月		13	水	
14	火		14	木	
15	水		15	金	
16	木		16	土	夏山例会山行2 南アルプス 鳳凰三山(藤本)
17	金	座学「運動生理学と補給」	17	日	
18	土		18	月	
19	日	夏山訓練 御在所～国見岳(島崎)	19	火	
20	月		20	水	西大和つうしん原稿締切
21	火		21	木	
22	水	西大和つうしん原稿締切	22	金	
23	木		23	土	
24	金		24	日	
25	土		25	月	
26	日	例会山行2 五大山(田中悦)	26	火	
27	月		27	水	西大和つうしん(8月号) メール配信予定
28	火		28	木	
29	水	室内例会(19:30)	29	金	
30	木		30	土	
			31	日	

山行・行事等参加メモ

No .	氏名 (入会順)	5/25 室内例会	6/5 二上山	6/1 座学	6/6	6/11	6/17 座学	6/19 御在所	6/26 五大山	7/3 兜・鎧岳	7/2 山筋
					予備	主					
					岩稜歩行						
1	(窪田)										
2	都築										
3	藤井	○	○					○	○	○	
4	(石田)										
5	多賀	○	○	△				○		○	
6	田中悦	○	○車					○車	L車	○車	
7	島崎	○	○車	○		○	○	L車		○車	
8	田中初	○	○						○	○	
9	村田	○		○					○		
10	林	○	○車	○		○	○	○車			
11	辻	○	L車							○車	
12	勝尾	○	○	○	○		○	○	○	○	
13	藤本	○	○	講師	LO		講師				
14	杉村	○	○	○	○		○	○	○	△	
15	高橋	○	○	○	○		○	○		○	
16	玉越	○		○	○			○	○		
17	杉川	○		○		○	○				
18	阪口	○		○		○			○	○	
19	橋本	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△
20	今井	○	○	○	○	○	○	○		○	○
21	亀高	○	○			○			○車	L車	
22	松浪										
23	亀井	○		○	○		○	○		○	
24	船江			○		○					
25	野路	○		○	○	○	○	○	△	○	△
26	中	○	○	○		○	○	○	○	○	
27	杉森	○	○	○		○	○	○車		○	
	合計	22	16+11	17+1	8	12	13	15	11+1	16+1	1+2
	緊急 連絡先		都築		辻	辻		辻	藤本	林	

※参加予定者は、室内例会（5/25）時点です。

山行報告

県連初級登山学校(ハイキングリーダー塾)第1回実技山行

比良山系

研修テーマ：リーダー・メンバーの役割

【日程】4月9日(土) 晴れ

【講師】中武佳史(奈良労山)【スタッフ】杉川

【受講生】L野路・橋本・他会2名(奈良労山1・こぶし1)

【コースタイム】比良駅(9:00/10:30)～中谷出合下(12:20/13:20)～大岩谷分岐(13:35/50)～
葛川越コース引返し地点(14:07/17)～大岩谷分岐(14:30/40)～中谷出合下
(14:50/15:25)～志賀駅(16:12)

初めての研修で「リーダー」となっていた。コースや所要時間・危険箇所など出来る限り、詳しく調べて臨んだ。挨拶や準備を済ませ、出発を想像していたが、先生の実技山行の講義が、この比良駅で行われた。

◆9:00 比良駅集合

【課題】「予定していた南比良峠迄の道が、崖崩れで通行不可能になった事が、この駅でわかった」と想定して、「この先どうするか?メンバー全員で考え、リーダーがまとめる様に」そして次のようにアドバイスを頂いた。

①ここから帰る

②ノタノホリ→堂満岳→金糞峠→青ガレ→イン谷

③イン谷→青ガレ→金糞峠→中峠→比良スキー場→八雲ヶ原→北比良峠

此処まで来た以上研修を受けたいので帰るのは×。③はかなりの時間が必要となり無理な行程と判断。②の行程なら時間迄に帰れると結論を出し報告に行く。先生は「③のコースも行けるよ!」「今日のコースの変更もあるよ」と言われる。又、全員で考え、予定のコースを大幅に変えて、蓬萊山に別ルートで行く事に決める。すでにかかなりの時間を費やしたので、確実に最後まで行けるコースをと考え、又時間が無くなった時はゴンドラが使用出来ると考え、次のコースを報告、決定された。

・計画書のコース=比良駅→南比良峠→比良岳→木戸峠→蓬萊山→クロトノハゲ→志賀駅

・新コース=比良駅→中谷出合下→大岩谷分岐→葛川越コース途中の分岐を左に行く(葛川越コースの途中から二つのコースに分かれる。分岐から葛川越にはルートファインディングが必要。もう一つは比良岳より南に下った位置で、荒川峠から木戸峠への縦走路に合流するこのコースに行く・国土地理院の地図のみ記載有)→木戸峠→蓬萊山→クロトノハゲ→志賀駅(遅くなった時は打見山からゴンドラを利用する)に決定。

計画書を訂正して投函。又緊急連絡先にも変更内容を報告して出発。10時半になっていた。(計画書は2枚要る事に気付く)

◆10:30 比良駅出発

・比良駅から南比良、大物から志賀バイパスを超えて志賀 IC 手前から中谷出合下へのコースに行く事にした。使用した昭文社の地図には記載されていないが、もっと近道(大谷川左岸の別荘地内を通る新道・国土地理院の地図には記載有)が出来ている事に気付かず遠回りになった。先生と杉川さんは近道を行かれた。

◆12:20 中谷出合下到着・先生達と合流

・「荒川峠」の標識があり、地図も確認したので登り始める。すると先生が「待った!」を言われた。



・「標識を信じ、頼りきってはいけない。仮に誰かが向きを変えていたら・・・風で方向が変わる事もある。間違いないと思っても分岐では、今、登って来た道も、又上の方も地図通りになっているかの確認が必要。必ず足を運んで見に行く事。その確認をメンバーに指示し、又『何分迄に戻る』かも決めて行かせる。メンバーが持ち帰った情報を収集して、リーダーがどの道に行くか判断をする。そして『だからこの道を行います』とメンバーに説

明する事が大切。」と教わる。

◆13:20 中谷出合下出発

◆13:35 大岩谷分岐到着

【課題】目の前の山を何分で登る事ができるか？

地図を見て、回りの地形の高さと比較して現在地の高さを知る。次に目標の山の位置確認と高さを調べる。現在地と目標の山の差を出す。先生はその差を約 150m と計算された。

水平距離 1km=10 分 垂直距離 100m=15 分 角度・・・? 150m=約 25 分で登れると言われた。今一理解出来なかった。

調べた結果 標準水平距離 1km=15 分 垂直距離 100m=15 分 傾斜 17°。高度(垂直距離)300m=45 分+15 分(水平距離)=60 分(300m 登るのにかかる時間は 1 時間)

その後もう一度メンバー全員で目的地までの地図の確認とコースタイムを計算。葛川越コースの、途中の分岐迄の最終到着時刻を 14:40 と設定。その時刻までに到着出来ない時は、蓬萊山への到着は無理と判断して、分岐から引き返す事とした。

◆13:50 大岩谷分岐出発

◆14:07 葛川越コース引返し地点到着

大岩谷分岐より緩やかな登りを 20 分も歩いたらどうか? 幅 4~5m、高さ 30m 以上はありそうな崩落があり、躊躇していたが前に進む事しか頭になく、先頭だった私が「行きます」とメンバーに言って、慎重に渡る。先生と S さんは少し遅れて到着。私だけが渡った所で先生は受講生を集めて説明をして居られた。

◆14:17 引返す

・「この先、この様な崖崩れが何ヶ所かあると思われる。かなり危険であり、時間がかかる事が予想される。このまま進んでも、目的地に予定の時刻までの到着は無理」と先生は説明され、ここで引き返す事となった。

・私は渡らず先生の到着を待ち、指示を仰ぐべきであった。事故になりかねない行動であったと反省。

この研修で「リーダーの役割」又「メンバーの役割」など、多くの事を教えて頂き、貴重な体験をさせて頂きました事に感謝申し上げます。

(野路 政子)

例会山行 2

鈴鹿山系 岩ヶ峰 920m～釈迦ヶ岳 1091.9m

【日 程】4月24日(日) 晴れ

【参加者】L 玉越、SL 田中悦、藤井、多賀、辻、勝尾、杉村、杉川、今井、亀高、中 (11名)

【コース】 栃谷P(8:45)～北山(10:04)～岩ヶ峰(11:38/46)～稜線出合(11:10)～釈迦ヶ岳(11:22/12:02 昼食)～中岳(13:22)～八風峠(13:35)～中峠登山道分岐(14:06)～栃谷P(15:09)

晴天の下、栃谷から渡渉をして急登が続く登山口に取り付くが、身体がまだ慣れていないのか疲れる。昨年事故のあたりまで登りがあり、そして現場を見たが警察の方がされたのか、地面から6、70cm上の所に木を柵のように横におかれ、これ以上落ちない様にしてあった。滑った石も、枯葉が無ければ滑る石ではなかった。滑落する様な場所ではなく、やはり私の注意散漫、油断などが原因です。登山は悩み解消、ストレス解消と言われていますが、平常心でないと山は怖いと実感した。元気な身体に戻してくれた山の神様に二拝。

岩ヶ峰と言う通り、多くの厳しい岩もありましたが、展望も開け鏡岩も確認でき、イワカガミやアカヤシオがあちこちで咲き、可憐な色のイワウチワなど気持ちを和ませてくれました。

岩ヶ峰から釈迦ヶ岳にでる稜線出合までに疲れた足を一段と疲れさせる最後の嫌な急登が待っています。ロープはありましたが、やはりしんどいでした。釈迦の山頂で昼食を取り始めると左足が下から徐々に腿まで攣って来て、やばい! 慌てましたがSTさんに足をみて頂き、少し会話をしているうち落ち着きました。水分が足りなかったように思います。

中峠、八風峠では釈迦の花崗岩を象徴する白いザレ場も多く、山自体が明るくて新緑も眩しく清々しい登山道でした。展望がよくアカヤシオが咲いている岩ヶ峰の稜線が、そして歩いてきた山容が見えて山座同定しました。下山は岩に気を付けて沢沿いを何度かの渡渉をして元気に栃谷へ。このコースは落葉樹が多いのがわかりましたので、紅葉の時に歩きたい山になりました。



(記：杉村好子)

自主山行

鈴鹿の山 入道ヶ岳 905.6m

【日 程】2016年5月1日(日) 晴れ

【参加者】L島崎、杉村、野路、中、杉森(5名)

【コースタイム】椿大神社(8:40)～鉄塔(9:19)～避難小屋(9:48)～北ノ頭～(10:40-46)～入道ヶ岳(11:15/12:20)～二本松避難小屋(12:47)～滝ヶ谷道分岐(12:51)～椿大神社(13:45)

プラチナクラブ初山行として鈴鹿山系の入道ヶ岳に行く。登山口の一宮椿大神社の駐車場は登山者や参拝者の車で混んでいた。

登りは見晴らしの良い北尾根ルートをとる。直ぐに急な登りになり、30分程続く。休憩し少し歩くと尾根に出た。心地よい風を受けながら進むと、鉄塔がある。左前方に青空が広がり広大な山頂が見える。皆益々元気になり、ひとしきり夏山山行の話などをしながら歩く。新緑の雑木林の中を歩くのは気持ちいいもので、ハイキングの気分になる。山頂近くから傾斜は急になり、やがて群生しているアセビの樹林に入る。まるでトンネルだ！ 10分程して抜けると笹原が開けていた。水沢岳、鎌ヶ岳、御在所岳の眺望が素晴らしい。しかし風は強い。冬期は台風並みの強風も予想される。休憩している傍にミヤマリンドウを見つけ思わずシャッターを押す。広々とした高原を迂回して椿大神社奥宮に寄る。入道ヶ岳は信仰の山であるのを改めて実感した。10分程してようやく頂上に到着。

既に多くのパーティがくつろいで食事をしていて。50～60人以上いる。山頂は360°の展望が楽しめる。冬天候が良ければ伊勢湾、アルプス、富士山なども見えるのに、今回は霞んでいるためほとんど見えな。しかし、鈴鹿山脈の山並みと、眼下に広がる伊勢平野の眺望を十分楽しめた。約1時間、食事をしながら談笑してのんびり過ごす。



下りは二本松尾根コースをとる。山頂から一気に下り、20分程すると傾斜は緩やかになる。孫の話などをしながら軽快に歩く。プラチナクラブらしい(?)山行風景だ。駐車場に着くとお宮参りなどの参拝者で一杯だった。

休憩を含めてわずか5時間、天候にも恵まれ、のんびりしたアットホームな山行であった。

(記：杉森英二)

例会山行3（教育山行）

「第3回 登山者のための事故対応講習会」奈良県勤労者山岳連盟主催

矢田山丘陵 矢田山 341m 付近

【日 程】5月 8日（日） 晴れ

【講 師】今井 雅文 氏（日本勤労者山岳連盟遭難対策部、元埼玉県連救助隊長）

【参加者】藤本（全体運営）／L 杉川・田中悦・林・亀高・船江・杉森

（西大和の参加者は7名。他会を含めた全体参加者は37名）

2014年度から今井講師を迎えた3回シリーズの事故対応講習会の最終回ということで、フィールドに出てルートファインディング、道迷いとビバーク、狭いツェルト内での濡れた着衣の着替えを体験する。さらにパーティ内で歩行困難な傷病者が発生との想定で、これまで学んだ方法で搬出を試みる訓練を行った。

料理体験館の室内から外に出て、灌木を支点にしてロープで支えながら急斜面で歩行困難者を安全に下ろすためのロープワークを学んだが、見学だけだったため、実技を試すことは出来なかった。早い機会に復習したい。また、例えば糖尿病のインスリン注射剤など、持病の処方薬が手放せない人は、リュック内の何処に何の薬を持参しているかも含め、山行パーティのメンバーに情報を共有しておく必要があるとのことには、「なるほど」と納得。

講義後、4班に分かれ、矢田山山頂から地図を見ながら指定ポイントを探す。地図の等高線と実際の地形からポイントに至る登山道を探すも時間切れ。実は西大和のD班は登山道を殆ど見つけていたが、確証が持てず時間切れとなってしまったのだ。今井講師の後を追ってポイントに到着の後は、班ごとにビバーク体験のためのツェルトを張り、強風を想定したツェルト内での着替えを体験。

救助訓練では、先ずHさんを傷病者として滑落場所からヒューマンチェーンで登山道まで搬送。次にリュックを利用した背負い搬送訓練では、紅一点のFさんが傷病者役となって、担いで下山させる。竹林の下り急斜面は、孟宗竹の落葉が積もって非常に滑りやすい。大半はリーダーのSさんが担ぎ、ほんの少し私も交代したが、竹の落葉が滑り、思った以上に歩きにくかった。実際に事故に遭遇した時に冷静に対処するためには、このような訓練でいろんな方法を学び、状況に応じた多様な選択肢を持っていることが重要。但し、中途半端な知識は却って危険を招くこともある。知識は実際に使えるものにして初めて役に立つということを肝に銘じたい。



（記：亀高 茂）

自主山行

佐渡山旅 金北山 1172m / 金剛山 963m

【日 程】2016年5月7日(土)～12日(木)

5月7日 OCT 20:35 発～5月8日 新潟港 8:15 着

5月11日 新潟港 20:45 発～5月12日 OCT 8:05 着

【参加者】島崎・野路・今井・玉越・橋本(5名)

【1日目】5月8日(日) 晴れ

【コース】両津港～青ネバ登山口(12:35)～落合(13:10)～ユブ(13:45)～アオネバ十字路(14:30)～尻立山～ドンデン山荘(16:30)

新潟港から心うきうきフェリーに乗り佐渡島に到着。天気は快晴、両津港で運よく乗客5人乗りタクシーを利用し、アオネバ登山口へ。(尾根周辺の青い粘土がアオネバの由来との事)木々が生き茂り新緑が美しい渓谷沿いを登り始める。

今年は雪解けも早く楽しみの花も終わっているのではと少し心配したが、登山口付近からさまざまな可憐な花に出会い感動!北ハヶ岳を連想させる風景。可愛らしくけなげに咲いているニリンソウ、シラネアオイ、ヒトリシズカ、イワカガミ、カタクリなどなど。。。。。



すれ違う登山者の方から「上の方にもっと咲いているよ」との情報を頂き足取りも軽くなる。尻立山に着くとはるか金北山へとつながる素晴らしい稜線に思いを馳せ、大満足の第一日目終了した。今日は序盤、二日目、三日目は思っていた以上にたくさんのお花に出会い、素晴らしい眺望を楽しむ行程となる。

アオネバ十字路までは何度か渡渉があったが、水量が少なく難なく通過できた。しかし登山道は少し狭くなっているところがあり転落すると谷に落ちてしまいそうな所も多々あった。「気をつけないと」と話している直ぐ後で、私がつまずいてしまい膝をつく場面があり後ろを歩いていた人にヒヤリとさせてしまった。転倒しない様、最後までしっかり歩く事を改めて自分に誓った。

(記：橋本紀子)

【2日目】5月9日（月）晴れ、金北山（1172m）

【コース】 ドンデン山荘(7:25)～アオネバ十字路(7:50)～マトネ(8:40)～石花越分岐(8:50/9:08)～天狗の休場(10:58/11:20)～あやめ池(12:08/12:20)～金北山(13:00/14:00)～マツムシ平(14:50)～白雲台(15:10)

お天气に恵まれた快晴の中、ドンデン山荘前を出発。金北山縦走路入口からアオネバ十字路をマトネへと向かう。山道では華やかなシラネアオイやカタクリ、ヒトリシズカ、ユキワリソウ等パンフレットにある殆どの花を見る事が出来た。

マトネ山頂を超えてツンブリ平へ出ると視界は開け彼方に金北山が聳えていた。厳しい環境の為か稜線には樹々は無くツンブリ平から天狗の休場・金北山への稜線は眼下の両側に日本海が見え両津港・加茂湖も見えていた。稜線をゆっくりのんびり何度も休憩しながら、海と新緑・花を愛でる贅沢な縦走コースを金北山神社の在る山頂に到着。金北山山頂には防衛省のレーダーが設置されており異様な景色。現在は使用されていないが神社を風から守る為に置いてあるとの事だった。



金北山からは通行届の必要な防衛省管理道路の砂利道を白雲台に向けて下る。監視されている気分の中歩く。途中、3人のパーティ・作業中の自衛隊隊員に出会いマツムシ平へ出て妙見山への分岐をすぎた後は白雲台が目の前だった。帰りのタクシードライバーさんに妙見山山頂のレーダーが現在活躍中の「ガメラ」と教わる。

山道は雪渓も少なく歩きやすい、多くの山野草に出会えた素晴らしい山行だった。計画して頂いたL・Sさん・山仲間感謝の山旅だった。

（記：今井雅代）

【3日目】5月10日（火）曇り一時小雨、佐渡金剛山（963m）

【コース】 旅館あおきや(7:20)～[タツ]～ドンデン山荘(8:00)～尻立山(8:30)～論天山(9:10)～芝尻山(9:20)～小芝園(9:35)～滑石(10:30)～雪畑山登山口(11:05)～雪畑山金剛山分岐点(11:30)～金剛山山頂(12:00/12:40)～組上(13:10)～トビガ沢(13:55)～白瀬登山口(14:50)～[タツ]～旅館吉田屋(15:30)

8日、9日と晴天に恵まれ、3日目となる山旅。10日のお天気だけが気がかりだった。旅館を出る時、小雨がパラつきはじめた・・・がドンデン山荘に着く頃にはもう止んでいた。ドンデン山荘から尻立山への登りはさほど急ではないのに、2日間の疲れか、寝不足か少し足が重い。

尻立山からの眺めは、赤い屋根の避難小屋、小さなドンデン池、春なのに少し紅葉が始まったような森、広い草原のような丘。とてもメルヘンチックな風景だった。論天山迄来ると昨日歩いた山並みが、金北山が見える。眼下には両津港と日本海。

芝尻山を過ぎると森の中の山道になる。所々残雪が溶けだしてぬかるんでいる。カタクリの花が何処までも続いている。かたばみや座禅草。春を待ち侘び、一斉に

目覚めたかの様に咲き出した花々の道を行く。尻立山を下った峠に「この山は花とみどりのたからばこ」と書いてあったが、本当に山全体が「花の楽園」であった。

緩やかな道も金剛山手前からは直登となる。又少し雨がパラ付始めた。頂上で昼食後下山。トビガ沢から登山道が変更されており、大小の石がゴロゴロしている沢の中を歩く。滑り易く慎重に歩くがやはり滑ってしまった。

翌日11日は佐渡観光でした。天候に恵まれた三日間、素敵なお仲間と「花の楽園」をのんびりと散策。初めて訪れた佐渡ヶ島観光、思い出に残る山旅となりました。
(記：野路政子)



例会山行1 布引山地 経ヶ峰 819m

【日 程】5月15日(日) 曇りのち晴れ

【参加者】L橋本・島崎・田中悦・藤井・村田・勝尾・辻・多賀・藤本・杉村・今井・亀高・亀井・船江・野路・中・杉森(17名)

【コース】上牧P(7:00)～細野登山口(9:00)～経ヶ峰山頂(10:10)～小屋(10:30/11:40)～経ヶ峰山頂(11:55)～穴倉分岐(12:05)～穴倉西・東分岐(12:50)～目無地藏(13:25)～細野登山口(14:47)

中瀬Cから長野神社を通り、細野登山口に3台駐車し、すぐ横の登山口より杉の樹林帯を登る。かなりの急坂を登って行く。600m辺りより、自然林になり、木々の新緑が気持ちいい。ところどころツツジが目を楽しませてくれる。穴倉分岐を過ぎると、広々とした360度見晴しの良い山頂に到着、生憎曇っており遠くまで見通せないが、伊勢湾・錫杖ガ岳・青山高原・鈴鹿山系が見渡せる。



風をよける場所を探す、近くの小屋に下って行く。小屋の周りは広々としてトイレ・水場もあり宿泊山行にもいいところである。小屋付近にて、のんびりと昼食タイム。一旦山頂に戻って下りは穴倉分岐より樹林帯の中を長々と下る。穴倉西・東分岐より下って目無地藏方面に行くが、これがなかなか意外に遠い。まだかまだかと思いつつアップダウンをくりかえして、やっと目無地藏に到着、目無駐車場から登山口に戻る。

(記：島崎 隆)

室内例会だより

【日 時】2016年4月27日(日) 19:30~20:40 事務所

【出席者】藤井、多賀、田中悦、島崎、田中初、村田、林、辻、勝尾、藤本、杉村、高橋、玉越、杉川、坂口、今井、亀高、亀井、船江、中、杉森、橋本

1. 山行案内

- 5月 8日(日) 例会3 教育山行《登山者のための事故対応講習会》……………L 杉川
- 5月 18日(日) 例会山行1 布引山町《経ヶ峰》……………L 橋本
- 5月 22日(日) 例会山行2 室生火山群最奥地《学能堂山》……………L 島崎

2. 山行報告

- 3月 25日(日) 県連ハイキングリーダー学校 雪山歩行、越美《取立山》L 中武(労山) ……5名
- 4月 2日(月) 雪山登山学校、六甲の山《蓬莱～塩尾寺》西大和3・奈良労山4…計7名
- 4月 3日(日) 自主山行、金剛山地 ダイヤモンド・トレイル《二上山～紀見峠》L 辻……………7名
- 4月 10日(日) 公開山行、室生山系《鳥見山～貝ヶ平山》L 勝尾
会員21・一般8……………計29名
- 4月 12日(火) 自主山行、京都西山《小塩山：おしお》L 島崎……………4名
- 4月 16日(土) 自主山行、大峰《地藏峠～百貝岳～西行庵》L 藤本……………7名
- 4月 17日(日) 県連女性委員会主催、丹波の山《向山》
西大和2・こぶし12・奈良 HC8・山楽会1……………計23名

3. 会報部新体制について

○会報部長的場さんが退会されました。これに伴い新体制を下記に決定しました。

新会報部長……………亀高さん、同代理……………辻さん

「西大和つうしん」印刷・製本担当……………勝尾さん・杉村さん

○「西大和つうしん」6月号より山行報告書は亀高さんに送る(HP用は山行後2、3日以内にHP編集担当者へ、山行報告書は1週間以内に会報部長に送る)。

4. 連絡その他

★県連からの連絡

- ・5月8日「登山者のための事故対応講習会」(本会例会1)が矢田山で行われる。
講習内容：山行中、道迷いしビバークしたと想定し、脱出するには何をすべきかを学ぶ。
- ・7月2日(土)「山筋ゴーゴ体操」講習会(女性部主催)開催。
- ・県連ニュースに色々な行事の案内が記載されているので、興味ある方は参加してください。

★本会からの連絡

- ・8月7日(日)例会山行2 能郷白山→8月21日(日)に変更。
- ・第一回岩稜訓練6月11日(土)に決定。参加希望者は、教育部藤本さん迄連絡。
多人数の場合、夏山自主山行の白馬三山、穂高参加者優先とする)第2回目日程は検討中。

★全国勤労者山岳連盟から辻さんが「荣誉功労賞」を受賞されました。

おめでとうございます。

★会長より

最近退会される際、突然メールのみで済まされる方が続いております。メールは大変便利なツールではありますが、一緒に活動してきた仲間です。事情は各自色々ですが最後はお互い気持ちよく終わらせたいものです。どうか皆様大人の対応をして頂きたく思います。

(記：橋本紀子)

西大和つうしん

第 408 号 (2016 年 6 月号)

2016 年 5 月 25 日発行

発行責任者 島崎 隆

編集責任者 亀高 茂

奈良県勤労者山岳連盟 西大和山の会
〒636-0003 奈良県北葛城郡王寺町久度 1-9-32
窪田友男方

TEL・FAX 0745-72-2876

<http://www.nishiyamatoyama.com/>